



平成22年10月21日

ハピーズ岡輝店に岡山大学コーナーを設置

(株)天満屋ストアと岡山大学歯学部共同研究事業をPR

株式会社天満屋ストアと岡山大学は8月、商品の販売情報を活用し、「口腔保健商品等の販売状況と歯科疾患の地域差」について共同して研究を行うことで合意しました。

同研究のスタートと実施PRを兼ねて、10月から岡山大学鹿田キャンパスの最寄り店舗である「ハピーズ岡輝店」において、研究の開始のPRと口腔ケア商品を選ぶ際のポイントを記載したPOPを置き、専用コーナーを設けています。

- 天満屋ストアと岡山大学は、「口腔保健商品等の販売状況と歯科疾患の地域差」について、共同して研究を行うことで同意し、同ストアの顧客に対して、共同研究の実施をPRするため、口腔ケアのための商品選択のポイントなどを紹介したPOP作成などを、共同して行いました。現在は「ハピーズ岡輝店」の1店舗のみですが、順次他店舗に拡大していくことも両者にて検討をすすめています。
- 近年、歯科疾患の地域差が注目されており、有病者率には地域差があることが多くの調査で明らかにされています。歯科疾患は、歯みがき回数や間食回数、歯科医院への定期的来院といった口腔保健行動と密接に関わっていることが分かっています。口腔保健行動の一部として、口腔保健用品の購買行動が考えられますが、購買状況は顧客や売り上げデータを扱うという観点から調査が行いにくく、口腔保健用品の購買状況の地域差について学術的に調査した研究はほとんど見られません。「地域のお客様の健康に寄与したい」天満屋ストアと、「地域住民の口腔保健行動について調査を行いたい」岡山大学との意見が一致し、共同して分析を行うこととなりました。
今回は、岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 大学院生 古田美智子・予防歯科学 森田学教授、歯学部共同利用施設 小河達之助手と、天満屋ストアのシステム担当者・バイヤーが共同して分析を行います。対象となる地域（店舗）と具体的方法に関しては、現在検討を行っています。
- 本研究を行うことにより、岡山大学は、口腔保健用品の購入状況を地域別に調査することで、一地域に住む集団の口腔保健行動を定量化することが可能となります。また、口腔保健行動の地域差を調査することで、歯科疾患の地域差を説明するための基礎的なデータを発信することができます。天満屋ストアは、地域に適した売場展開や、品揃えに資するデータを得るための分析手法を、岡山大学と共に研究することで、産学連携による協力体制の実施が可能となります。また、分析の手法は、口腔保健用品以外の分野への応用も期待されます。



PRESS RELEASE

(注)

・株式会社天満屋ストア

岡山市北区岡町に本社を置き、「優良商品の販売を通じて地域社会の生活文化の向上に寄与する」という経営理念のもと、「天満屋ハピータウン」・「ハピーズ」のブランドで、岡山・香川・広島に計24店舗のスーパーマーケットを展開しています。今回の調査研究では、同社のハウスカードである「ハピーカード」会員への販売情報を利用しますが、購買者に関する情報は、性別・年齢などに限り、匿名化されたものを利用します

・口腔保健用品について

歯ブラシ、歯間清掃用器具、洗口液などを指します。今回の研究では歯に関わる関連商品も分析対象とすることで検討を行っています

(店舗ディスプレイ)

	<p>ハピーズ岡輝店（岡山市北区奥田本町）に設置された売り場</p> <p>商品選びのポイントとなる成分についても説明しています</p> <p>岡山大学歯学部と民間企業が、過去に共同して開発した商品も一部PRしています</p>
	

<お問い合わせ>

岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科

小河 達之

電話 086-223-7151 内線6735

e-mail otatsu@cc.okayama-u.ac.jp